

～ 3年生 地域の話 ～

2025.2.13・17・26

3年生は総合「大好きつばさプロジェクト」の学習で、3名のゲストティーチャーをお招きし、新通つばさ小学校の今と昔の学校周辺の様子についてお聞きしました。

子どもたちは自分たちの地域のことにとっても興味がある様子で、最後の質問の時間ではたくさんの子どもが手を挙げていました。

昔と今、多くの地域の方々が関わりながら今の生活文化が生まれたこと、そして皆さまの愛にあふれた地域であることを感じる事ができる貴重な時間だったと思います。

ゲストティーチャーの皆さま、お忙しい中、ご快諾下さり、また分かりやすくお話をして下さい、誠にありがとうございました。



第1回目、地域の原明彦さんをお招きし、昔のお話をお聞きしました。60年前、原さんは5歳で、当時は家よりも農村と田んぼが多く、秋になると辺り一面黄金色になったこと、西川で食器など洗ったり、魚を捕まえて遊んだり、稲作に利用したり、生活には欠かせないものだったこと、護念寺の本堂が幼稚園で教育の場の始まりだったこと、お隣の内野の町で果物や魚が買えたり、床屋や医者などがあり都会だったことを教えて下さいました。棒がついたアイスは当時5円だったそうで、みんな「えー！」と驚いて、うらやましそうにしていました。



第2回目、地域の小林雄介さんをお招きし、プラッツについてや、地区の魅力についてお話をお聞きしました。プラッツが出来てから今年で21年、約2000人が住んでおり、お店やバイパスが近く、生活するのに便利なのが魅力とおっしゃっていました。人との繋がりを大切にしたいので、プラッツ祭りなど様々なイベントを考え企画されているそうです。みんなが色々な地域のイベントに参加したり、学校生活を楽しめば、地域全体が盛り上がり、人との繋がりが強くなり助け合いもできる地域になると力強いメッセージを下さいました。



第3回目、まちづくり協議会の梶原宜教会長をお招きし、当地区の過去から現在の様子・人や物の移り変わり・未来への展望をお聞きしました。60年前の新潟地震がきっかけで、被害の少なかった西区に人が移り住むようになったそうです。人と人の繋がりが大事であり、「人と会う」「人と話し合う」「人と触れ合う」ことの大切さを教えて下さいました。コロナ禍で開校し、開校2年目で折り紙ハトの巨大壁画のギネス世界記録に認定された新通つばさ小学校。みんなの力を合わせてこれからも伝統づくりをしていってほしい、将来や夢に向かってはばたける力を身につけてほしいとあたたかいエールを下さいました。